



月刊

オリーブ

2024
6

Vol.109

— 真の更生を目指して —

更生、改心・・・回心との違い

「更正」とは、「間違いを直すこと」と言う意味の言葉です。正しくないものや、望ましくないものの内容を改めて直す事を言います。「改心」と言っても良いでしょう。

日本では7月に強化月間として「社会を明るくする運動」があります。これはすべての国民が犯罪や非行の防止と、犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動の事を言います。内閣総理大臣からのメッセージが各市町村に届くほど法務省は力を入れています。

テレビや新聞では毎日のように事件や犯罪のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためにはどうすれば良いのでしょうか。当然取り締まりの強化や、罪を犯した人を処罰することも必要です。同時に、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまたとても大切なことです。立ち直りを支える家庭や地域を作る、地域のすべ

ての人たちがそれぞれの立場で関わっていただく必要があります。「これが極めて重要なことです」

それでも犯罪や非行をしてしまう人もいます。その人たちが社会の中で適切に処遇し、地域社会の理解、協力を得て、これらの人たちが自立し安全安心な地域社会をつくっていく活動が「オリーブの家」の【更生保護活動】です。

様々な支援を頂きながらファミリーの皆さんは「更生への道」をそれぞれ歩みます。多くの支援者がいる場合もあれば、独りコツコツ頑張る人もいます。「生きていくだけで更生だと思えます」と言った方がいるように、「更生の道」に正解はありません。残念な事に地道に歩んだとしても「更生への道」を踏み外してしまうこともあるのです。この世は真の神以外のものを軸にして成り立っていますから、どんなことが起きるか分からないのが現実です。誰であっても犯罪に手を染めてしまう可能性が皆無とは言えないのです。

一方、「回心(かいしん)」とは、罪人の神への帰還、平凡な生活からキリスト者

の生活に転じること、神を軸とすることを言います。

更生とは違い回心は家に例えるならば大黒柱です。古民家ならば、家の中央で少々のことではびくともしない大黒柱が家全体を支えています。回心とは自分自身の中に神を大黒柱として据えつける事なのです。

永山副理事長も言っています。

「自らの罪を認めて涙しても、真の悔い改めに至らない場合が多くあります。人は何か事が起こると一時的に反省しているように見える状態になりますが、すぐにまたつまづいてしまいます。人は内側から変わらないと変わりません。いや、人は、内側から変えられないと変わらないという真理に気づくのです」。

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

コリント人への手紙 第二 5章17節



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

オリーブの家10周年おめでとうございます。月毎、月刊オリーブを送っていただきありがとうございます。心の何より信仰の糧となっており、感謝しています。オリーブの家が10年を迎えられいろんなことを考えさせられました。一口に、いえ簡単に10年とは言いません、一朝一夕にその日を迎えられたわけではありません。一日一日、3650日という月日が積み重ねられてこそです。この営々と積み重ねてこられた事、これは簡単に真似のできることはありません。苦難の連続でもあつたはず。私が…それは我々が言っても良いのかもしれませんが、社会でいくら夢、希望を持ってはいても目の前の苦難に耐えることができず、足を踏み外し、罪をおかすことをためらわずに生きてしまったこと、そして今この生活でさえ、目の前の

試練に立ち向かうことさえままならない日々が多々あったりします。そんな中であつて青木さんの背中が何を語っておられるのか。それがこのオリーブの家10年という月日、青木さんの一日一日3650日という歩みの中に隠されているのだと改めて思いました。それは青木さんの信仰そのものです。幾多の試練があつたとしても、ゆるぎない神への信頼、神を畏れ生きている、神に用いられることを願ひ、祈る。その信仰なのだ。それはまさにイエス様はよみがえられ、今も生きておられるのだということを目に見える形で、我々に現されているのではないか。私はイースターを迎え、オリーブの家の10周年という大切な節目に立ち会わせていただき、祈りの中で青木さんの、青木塾長のことを賛美させていただく中でこのような思いに至りました。

うに聖書を読み元気にしております。いろいろ何かの力に助けられている導かれていると思うことが多く、その都度私の人生は御手の中にあるんだなど。もっとも神に用いられる生き方がして行けたらと思ひ実感もしています。できることなら一日も早くオリーブの家に行き、青木さんをはじめ皆さんと集い神を賛美することができたらとつくづく毎日のように思っています。そんな日が早く来るようにしなくてはいいけません。それはもちろん私自身の力はどうすることもできませんが、しっかりとした生活、ここでの生活はもちろん御心にかなう生活をそして神を畏れ、神を信頼し、神に用いてもらえるような生き方信仰を続けていければ、必ずやその日を迎えることができるのだと信じています。とは言え、それでもなかなか思うようにならないのが現実社会にはありますが、神に向かう道を歩んでいきます。

【主に向かう道を歩ませてください。平和の心を携えて】これはスウェーデンの修道士さんの言葉だそうです。世の中には神を信じる国々が人々が戦争や紛争を今なお続けています。たくさんの犠牲を招きながらもです。原点に立ち返り、もう一度神と和解をし、私もそういう気持ちで主に向かつて道を歩んでいきたい、そう思っています。(Iさん)

久しぶりにお手紙を頂戴いたしました。どこであつても神様にしっかりと向き合われているIさんには心打たれます。万人祭司、神は2人を決して離しません！(青木康正)

5月の農園だより



ファミリーのTさんが植えた落花生が、芽を出してくれました。成長して沢山の実を付けてくれること期待しています。(農園長)

支援者からの

寄稿



東日本大震災から熊本大会まで

日本グループホーム学会

仙台大会事務局

横谷 聡一

3. グループホーム連絡会の誕生

東日本大震災のグループホームの現場では、全国から救援物資が届くようになるまで、水と食料等の生活に必要な物資の確保に奔走することとなりました。被災直後の東日本全域のグループホームではきつと同じように苦しんだのではないかと思えます。連日連夜、安否確認やライフラインのサポートの為に巡回を行い、「苦しいのは自分だけ?」と思ったことがあります。全身全霊で一日の仕事を終えた後、ショートメールで仙台市内に働く他の法人の連絡先を交換していた支援者に連絡をとると、短文から始まり、ものすごく濃密なやりとりが始まりました。

その場その場の状況により問題や課題も時間とともに変化しますが、同じ地元であることもあり、私の解決できたことが他の事業所に、他の事業所で解決したことが私の事業所の解決になることがショートメールのやりとりによって、日に日に増えていきました(救援物資情報、ガソリン確保、交通情報など)。日本グループホーム学会にメールリストがあり、タイムリーに現場からの窮状を発信すると全国の支援者のもとに声として届きました。電気が使えずパソコンを動かせないことからグループホームの運営費を請求できない沿岸部のグループホームもたくさんあり、国へ要望書として学会が提出したとの知らせも届きました。

自力で何とかせよ、ではとても苦しくなります。しかし、助けを求める方の安否を祈ると、遠方まで自転車で走る時も、空腹であっても大きな励ましになりました。また、同じように奔走する支援者からのショートメールに、とても励まされました。それから7年の月日を要しましたが、2018年に仙台市グループホーム連絡会が設立となりました。現場に役立つ研修や視察報告、日ごろの思いを語り合える企画等を中心に活動を続けています。その前年の2017年には、日本グループホーム学会全国大会を仙台で開催となり、当時ショ

トメールで連絡をとりあった支援者たちを中心に事務局をすることとなりました。その後、ともに連絡会の立ち上げメンバーとなっていきました。

今回は連絡会を中心にお伝えしましたが、次回は日本グループホーム学会仙台大会の様子をお伝えしようと思います。オリーブの家が2024年11月開催の熊本大会の事務局を担ってください、この機会によって、熊本の方々のつながりが広がっていくことを、心から祈っております。

横谷 聡一

よこや・そういち



1972年生まれ。1998年より精神障害のある方々の支援に従事。宮城県仙台市で障害福祉サービス事業(グループホーム、生活介護、就労継続支援B型)を運営する社会福祉法人みんなの広場の理事長、総括所長をつとめる。
東北福祉大学卒業、日本グループホーム学会副代表、日本グループホーム学会仙台大会事務局長、仙台市グループホーム連絡会副会長、東北福祉大学特別講師。2020年ハーベスト聖書塾を卒業(第39期生)。



オリーブの家で 見つけた笑顔



「去年のIさんの葬儀の一連を体験して、死について考えるようになった」と言うYさんは60代です。50歳になる前に病気を発症され、障がい者手帳を持っています。

オリーブの家がスタートして3年目のH28年6月にYさんはやって来りました。出会ってからも9年目です。

当時、半年間支援を受けた後自立されました。ご縁がありH30年1月も終わらんとする頃に再びオリーブの家に来られました。オリーブの家で賛美や聖書の言葉に少しづつ触れていた彼は、この春心に据えるものとしてキリスト教の信仰を受け入れました。

やはり、強く彼の背中を押したものは、天国へ行ったIさんの死の様です。オリーブの家のみんなでIさんを賛美で天国に送り、秋には建立したてのお墓に納骨を致しました。秋晴れの気持ちの良い日でした。

今、Yさんの表情は穏やかです。ご本人は気づいておられるでしょうか？

副理事長 小原順子



2024年2月～4月会計報告

| | | 2月 | 3月 | 4月 |
|-------------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 月次自立準備支援人数 | | 3名/6室 | 5名/6室 | 4名/6室 |
| グループホーム利用者数 | | 8名/8室 | 8名/8室 | 8名/8室 |
| 累計ファミリー数 | | 157名 | 159名 | 160名 |
| 収入 | 自立準備ホーム | 733,746 | 546,610 | 662,904 |
| | 献金 | 905,100 | 701,324 | 734,160 |
| | グループホーム | 1,932,574 | 2,023,877 | 1,630,254 |
| | その他 | 136,192 | 278,295 | 119,261 |
| 収入合計 | | 3,707,612 | 3,550,106 | 3,146,579 |
| 支出 | 家賃 | 465,600 | 501,600 | 457,600 |
| | 水道光熱費 | 227,704 | 198,384 | 184,125 |
| | 食費 | 428,469 | 411,532 | 379,946 |
| | 人件費 | 2,030,944 | 2,057,589 | 2,043,786 |
| | 活動費 | 50,053 | 83,011 | 59,384 |
| | その他経費 | 539,696 | 383,270 | 544,786 |
| 支出合計 | | 3,742,466 | 3,635,386 | 3,669,627 |
| 収支合計 | | -34,854 | -85,280 | -523,048 |

| | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 前月繰越現金預金残高 | 4,201,111 | 4,494,612 | 4,828,707 |
| 翌月繰越現金預金残高 | 4,494,612 | 4,828,707 | 3,516,970 |
| 施設準備積立金残高 | 2,750,093 | 2,800,093 | 2,850,093 |

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
オリーブの家は平成26年1月に設立され、令和6年は設立11年目になり新たなスタートです。ここに令和5年度第10期の決算書が出来ましたので簡単に報告します。令和5年度の支援金は1402万円・自立準備ホーム委託金731万円・グループホーム給付金2466万円・その他を含めた総収入金は4766万円です。一方、人件費・食費・賃料等を含めた総支出は4656万円で、収支はプラス10万円でした。これもひとえに皆様からのご支援の賜物と感謝申し上げます。これからも引き続きご支援宜しくお願いいたします。

監事 馬原清隆

※ PLとCSには時差がありますが、今回、現預金残高が130万ほど減っているのは、社会保険料の支払いが2ヶ月分あったこと、介護給付金の過誤調整により未収金の入金が少ないことが理由です。

| | | | |
|-------------|--|-------------|--|
| 銀行振込 | 肥後銀行（銀行コード：0182） 京町支店（支店コード：156） 口座番号：（普通）1574408 口座名義：NPO法人オリーブの家 トクヒ オリーブノイエ | 郵便振替 | 銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：990） 口座番号：17180-5444801 口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家 口座名称（カナ）：トクヒ オリーブノイエ （他銀行からお振込の場合は） 店名：七一八（読み：ナナイチハチ） 店番：718 口座番号：（普通）0544480 |
|-------------|--|-------------|--|



月刊オリーブ
2024年6月1日発行
(毎月1回発行) 第109号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<http://seishoforum.net/olive-house/about/>

